2018年11月20日
季刊 年4回（2,5,8,11月）発行

支え合い、備え、いのちをつなぐ 第27号

震災リゲイン Press プレス

震災復興・防災情報専門メディア 全国4万部配布
発行元：特定非営利活動法人 震災リゲイン
発行人：相澤久美　編集人：内田伸一

編集部：〒106-0044 東京都港区東麻布2-28-6　Tel：03-3584-3430　Fax：03-3560-2047

第27号 あの町 この町の実践

2面 ● それぞれの防災と復興
ボラコなごや／三陸国際芸術祭

3面 ● もしものときの生活再建入門
● 都市防災ブートキャンプ ● 書籍紹介

4面 ● 人と復興　● 企業の取り組み

知っておこう！

すぐそばにいる、市民防災チーム。「消防団」のいまを知ろう。

「消防団」の具体的な活動や現状とは。いま一度、その存在と参加のメリットを考えてみましょう。

文＝猪飼尚司
イラスト＝飯川雄大

◎ 消防団と消防署の違い ◎

「消防団」と聞くと、どことなく昭和っぽくて、地方にしかないようなイメージを持つかもしれません。しかし、都市部を含む全国の市町村に消防団は配置されており、その数は現在およそ2,200。分団まで含むと、2万以上のチームが日本にはあるのです。その名前から、消防署の関連組織だと勘違いしそうですが、完全なる別組織。消防署員には採用選考があり、常勤となるのに対し、消防団員はその土地に居住、もしくは勤務する18歳以上であれば誰でも参加でき*、日頃は各々の職業に専念できる点でも大きく異なります。

◎ その歴史と、現代の活動 ◎

消防団のルーツは、江戸時代までさかのぼります。テレビ時代劇『大岡越前』の主人公としても有名な町奉行・大岡忠相が、江戸で頻発していた火事対策のために町人を組織化し、「町火消（まちびけし）」として消化・防火活動にあたらせたのです。

一方で、現代では高い知識と技術を持つ消防署がその軸足を担うなか、消防団の役割も次第に変化しています。火災発生時には、消防車の到着までの初期消火のほか、住民の安否確認をしたり、大切な家財道具を運び出したりします。さらに火災だけでなく、地震や水害などの際にも、さまざまな防災活動を率先して手伝います。同じエリアで暮らし、生活環境を共有する顔なじみだからこそできるサポートがあるのです。

ピーク時には200万人いた団員数は、現在85万人程度。核家族化や都市部への人口集中が、主な減少理由と考えられますが、平成以降は女性の参加数が増加しています。また、東日本大震災を機に防災への意識が高まり、全国的な減少傾向の一方で徐々に団員数を増やしている地域もあるようです。

◎ 地域に根ざした防災チーム ◎

消防団に入団すると、非常勤の特別職地方公務員という扱いになりますが、本職との兼務はもちろん可能。居住地区や役職に応じて変動はありますが、数万円の年俸、7000円程度の出動手当があるほか、一定期間以上勤めた際の退職報奨金や、公務災害の補償もあります。同時に、規定の講習や研修を受けることで、危険物取扱者、防火・防災管理者といったさまざまな資格を自動的に取得できる可能性もあります。

消防署や自主防災組織、NPOとの連携によって、自分たちが住む地域を自分たちで守るチームが消防団。一人でも多くが参加することによって、より安心した毎日が過ごせるはずです。また自分自身は入団しないまでも、地元の消防団のことを知っておくのは良いことでしょう。まずは、ご自身が暮らす場所の市役所や町村役場、消防署などを訪れ、聞いてみてください。その実態や申し込み方法が詳しくわかるはずです。

※詳細な入団資格は市町村ごとに条例で定められており、異なる場合があります。

●消防団オフィシャルサイト
http://www.fdma.go.jp/syobodan/
総務省消防庁が運営。消防団に関する具体的な活動内容、入団方法の解説、近くの消防団の連絡先などを詳しく知ることができます。

それぞれの復興と防災

西日本豪雨で被災した岐阜県関市での支援活動

養成講座を経て復興・防災に活躍

[災害ボランティアコーディネーターなごや（ボラコなごや）]

「今、ボラコで来てるんです」「ボラコの人、他にいる？」

普通ならまったく通じない会話だが、名古屋の防災関係者になら、たいてい通じる。しかし、名古屋弁ではない。ボラコとは「ボランティアコーディネーター」の略。災害に関していえば、ボランティア希望者と被災地のニーズを結びつけ、ボランティアセンター等を支える役割を担う。

「ボラコなごや」の設立は2002年。NPO法人レスキューストックヤード（RSY）が市の委託で企画運営する「名古屋市災害ボランティアコーディネーター養成講座」の受講生が「学んだことを生かそう」と集ったのがきっかけだ。

現代表の髙﨑賢一さんは、養成講座の1期生。小学4年生だった1959年に伊勢湾台風を経験したが、災害ボランティアに特別な関心はなかった。しかし、会社勤めの傍ら、ふと見た市の広報に養成講座の募集記事があり、受講してその大切さを知ったという。

実際にボラコなごや発足後の2004年、日本に10個もの台風が上陸して災害が多発。高﨑さんらはRSYの要請を受け、新潟県三条市などでボラコとして活躍した。

今も養成講座は続き、受講者が続々とボラコなごやへ仲間入り。メーリングリスト等を介して100人以上がつながる。新入会員の歓迎会などで平時から交流するほか、今年は養成講座の開催前に西日本豪雨が発生、新旧メンバーが岐阜県関市にボランティアバスで入り、被災家屋の片付けなどにあたった。被災地支援に加え、地元での「防災ファッションショー」や勉強会などの啓発活動も担っている。

また、ボランティア意識が高まった名古屋では、RSYやボラコなごやに加え、2009年までに市内全16区に災害ボランティア団体が発足。月1回の「なごや災害ボランティア連絡会」で情報交換しながら、つながりを育てている。

「ボラコも各区での活動も、試行錯誤の積み重ね。防災の取り組みをしたいとき、『あそこに頼めばなんとかしてくれる』という信頼感、安心感に応えてきた。継続は力なりです」と高﨑さん。メンバーの高齢化という悩みはあるが、発生の切迫性が高まる南海トラフ地震への備えを進めるためにも、気は緩められない。こうした取り組みが各地のモデルになることも期待されている。（関口威人）

避難時の備えなどを楽しく啓発する「防災ファッションショー」の様子

参加する

名古屋市災害ボランティアコーディネーター養成講座は年2回、市内在住・在勤・在学者を対象に開催。次回は2019年1月26日、27日、2月2日の3日間を予定。詳細下記。
名古屋市市民活動推進センター
http://www.n-vnpo.city.nagoya.jp/
Tel. 052-228-8039

郷土芸能を通じて、復興と交流を

[三陸国際芸術祭] http://sanfes.com/

「東北には二千以上の郷土芸能団体があると言われ、世界でも類を見ない芸能の宝庫です」。東日本大震災で大きな被害を受けた沿岸地域の郷土芸能が集う「三陸国際芸術祭」の佐東範一プロデューサーはこう話します。「三陸の各集落にはそれぞれの芸能があり、たとえ隣同士、似ている芸能でも必ずどこかが違う。これってすごいことですよね」。

京都でコンテンポラリーダンスのNPOを運営する佐東さんは、東日本大震災直後の光景を東北で目にし、文化・芸術にできることを模索し始めました。避難所でダンサーと共に身体ほぐしのワークショップをした際、ふと見た避難所の予定表に支援者の来訪予定がびっしり書かれていて、「実は自分たちの方がもてなされているのでは」と思ったそうです。「『支援者』として行くと、みなさん『被災者』として振る舞ってくれるように感じました。もちろん実際に被災されているのですが。同じように"アーティスト"が行けば、みなさんが"受け取る側"になってしまう。そうではない関係を築けたらと思ったのです」（佐東さん）

そこから、地域外の人々が郷土芸能を習いに行く、という逆の発想が生まれました。ただ、郷土芸能は他所の人間が簡単に教えてもらえるものではありません。そんななか、岩手県大船渡市の浦浜念仏剣舞(けんばい)と金津流浦浜獅子躍(ししおどり)の会長である古水力(ふるみず・ちから)さんと出会います。対話を重ねることで理解と協力を得られ、2013年8月「習いに行くぜ！東北へ!!」を開始。

これが発展し、2014年夏、郷土芸能をより多くの人に見て、体験してもらえる「三陸国際芸術祭」が始まりました。以来毎年開催され、昨年の第4回では、八戸や大船渡などの地域を移動しながら、町中などで芸能が披露されました。また、これまでに、韓国、香港、インドネシア、シンガポール、マレーシアの芸能団体や現代のパフォーマーを招くなど、新しいつながりが生まれるよう企画されています。

「芸能とは、人・地域・時代などの森羅万象をつなぐ装置だと気づいた」と佐東さん。ただし郷土芸能は、人口減少などで従来と同じ形では存続が難しくなっているのも事実です。郷土芸能を世界へ開くことで継続の新たな形を見出すことも目標に、今年度も開催予定です。（山道雄太）

2017年、大船渡市キャッセン千年広場での仰山流笹崎鹿踊り

2016年、大船渡市盛商店街でのインドネシア・西パプアの芸能集団「サンガル・スニ・マリシン」

参加する

第5回目は、2019年2～3月に青森県八戸市、岩手県宮古市、大船渡市などで開催予定。詳細は上記ウェブサイトへ。

読者プレゼント

以下ご記載のうえ、右ページ下に記載の編集部宛（ハガキ／Fax／E-mail）にてご応募ください。
①希望プレゼント（A～Bのいずれか） ②郵便番号・住所・名前・電話・性別・年齢 ③よかった記事 ④ご感想・ご意見 ⑤本紙をどこで手に取りましたか？

A **5年保存ひとくちチョコレートラスク 10名**
提供：積水ハウス株式会社
宮城県登米市の米粉を使用した非常時にも美味しい防災ラスク。

B **LED懐中電灯 5名**
提供：プラス株式会社 ジョインテックスカンパニー
単三乾電池1本で点灯、軽量・小型・防雨型で携帯にも便利。

※2019年2月20日締切。当選発表は発送をもって代えさせていただきます。
※個人情報は当選者への発送に使用させていただく以外は、第三者への提供等一切行いません。

インターネットからも応募可能。
右のQRコードからアクセスを！

制度を知る
－連載－

もしものときの生活再建入門

第４回・災害に関する保険の活用と注意点

文＝関口威人

被災地では「お金のことは保険会社に任せてある」という人たちの声をよく聞きます。実際、災害後に地震保険や火災保険を申請する件数が、自治体の把握する被害件数より多くなる場合があります。**保険による補償は対象が広く、受け取れる可能性のある金額も多い**のが現実だからです。

自治体が罹災証明書を出すときの家屋被害判定は「全壊」「大規模半壊」「半壊」「一部損壊」の4区分ですが、被災者生活再建支援法や災害救助法で最大300万円の支援金や最大58万4,000円の応急修理費用が出るのは「半壊」以上。**「一部損壊」の家屋には原則、支援がありません**（災害減免法で所得税が軽減されることなどはあります）。

これに対し、地震保険では保険会社が**「全損」「大半損」「小半損」「一部損」**の4区分を認定。支払われる保険金額は建物で5,000万円を上限として、契約金額のそれぞれ「100％」「60％」「30％」「５％」。つまり**「一部損」でも、ある程度の支払いがあります**（ただし被害額が建物の時価の3％以下だと対象外）。ですから「まずは保険」で間違いないのですが、公的支援もできるだけ役立てるべく、申請できるものはしておきましょう。

なお地震保険は、政府による再保険が後ろ盾となる制度です。契約は火災保険とセットでするのが原則。その火災保険は、地震や噴火以外の台風などの風水害による被害も補償しますが、**「床下」浸水は補償されず、水没した車の被害も対象外（車両保険でカバー）**など分担があります。

一方、災害後に訪ねてきた修理業者が「台風で壊れた屋根を保険で直しましょう」と言って修理したものの、実際は保険対象外の老朽化部分だったという詐欺的なケースも。**最近はこうした悪質業者によるトラブルが増えている**として、国民生活センターなどが注意を呼び掛けています。

災害への備えに保険は欠かせませんが、加入時も被災時も、契約内容を保険会社や代理店によく確認し、**トラブル時には最寄りの消費生活センターなどに相談**しましょう。

地震保険の損害区分と支払保険金

全　損	契約金額の100％
大半損	契約金額の60％
小半損	契約金額の30％
一部損	契約金額の5％

- 地震保険の対象は居住用建物（店舗併用住居含む）および家財
- 地震保険は火災保険とセットで契約するのが原則
- 火災保険は台風などの風水害をカバー、ただし補償範囲はさまざま
- 災害後の悪質業者に注意。トラブルがあれば消費生活センターに相談を

作成：震災リゲイン（日本損害保険協会のサイトなどを基に）

「都市防災ブートキャンプ2018」レポート

2018年11月4日　東京都大田区京浜島（「鉄工島フェス2018」関連プログラム）

みんなで学ぶ防災・減災

昨年の初開催に続き、今年も「都市防災ブートキャンプ」が東京都大田区の京浜島で開かれました。都市防災に関心をもつ人々が共に学び、体験し、対話する催しです。

まずは訓練視察「ハイパーレスキューとは」。約20名の参加者で東京消防庁 第二消防方面本部消防救助機動部隊を訪問。災害現場を想定した施設での救助訓練や放水訓練、特殊救急車などを見学し、都市防災の最前線を実感します。

続いて訓練体験「都市直下災害をサヴァイヴする」。地元・大森消防署から講師を迎え、応急救護訓練をみなで体験しました。救急手当てやAED（自動体外式除細動器）の扱いなど、実際にやってみることで各々が有事に備えます。

最後は防災広場でクロストーク「メディアとデバイスによる民間防災」。震災リゲインから代表理事の相澤久美が、主に小紙の発行活動についてお話ししました。もうお一人は、災害時の「クライシスマッピング」を考える古橋大地さん（青山学院大学地球社会共生学部教授）。インターネット上の地図に被災状況などを反映して救援等に役立てるもので、古橋さんたちはドローンも駆使したマップづくりに取り組んでいます。じっくり継続型のメディアと、スピード更新型のツール、多様な防災・減災が語られました。

この催しを始めた澤隆志さんは、「過酷な災害も多かった今年、見学・訓練・対話で防災を学ぶことで、改めて共助の精神を持ち合えたら」と語ります。「有事を無事に。」を合言葉にしたこの試み、今後もぜひ継続に期待します。

ハイパーレスキューの皆さんと参加者一行（右端が澤さん）

読み・聞きあれこれ
―書評ほか―

はなちゃんの はやあるき はやあるき

宇部京子（作）菅野博子（絵）／岩崎書店刊　1,404円

この絵本の舞台はある保育所。のんびりやの「はなちゃん」は、月に一度の避難訓練でも、つい逃げるのが遅くなってしまいます。先生の教えを守り「はやあるき」の練習。そんなある日、大地震がやってきて…。東日本大震災の津波を逃れ高台へ避難、園児90名と職員14名が無事だった岩手県野田村保育所の実話をもとにした一冊。背景にあった地道な避難訓練と子どもたちのがんばりを絵本で知り、学べます。（内田伸一）

減災と復興　明治村が語る関東大震災

武村雅之（著）／風媒社刊　2,376円

愛知県犬山市の博物館・明治村にある、関東大震災をくぐり抜けた震災遺産を紹介し、その教訓を考える本。関東大震災の被害額は当時の国家予算の3年半分でしたが、首都直下地震や南海トラフ巨大地震の想定被害額は今の国家予算で換算しても同等かそれ以上と言われます。関東大震災の避難民を全国各地で受け入れ、荏原製作所の私費で設置したポンプが活躍したことなど、全国民や多くの企業が応急対策に貢献した史実は、国や自治体だけに頼れない巨大災害に対する、私たちへの大事な教訓と考えます。（佐々木晶二）

震災リゲインプレスとは

震災にまつわる情報を、復興、支援、防災・減災、日常の備えなど様々な切り口でお届けするフリーペーパー。「あなたにもできる」小さなアクションもご紹介します。年４回、地震や災害について考え話し合う時間を持ってもらうことが狙いです。ウェブサイト（http://shinsairegain.jp）もあります。

ご意見、情報をお寄せください。

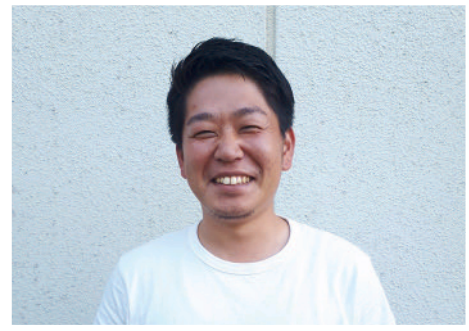
特定非営利活動法人 震災リゲイン『震災リゲインプレス』編集部宛　E-mail: info@shinsairegain.jp
〒106-0044 東京都港区東麻布2-28-6　Tel: 03-3584-3430　Fax: 03-3560-2047

NPO法人　理事（五十音順）：相澤久美、内田伸一、大場健一、鬼本英太郎、日下部泰祐、佐々木豊志、関口威人、高木伸哉、田北雅裕、福井一朗｜監事：渡部宏幸｜編集・執筆：猪飼尚司、加藤久人、佐々木晶二、関口威人、高木伸哉、深山亜耶、山道雄太｜イラスト：飯川雄大｜デザイン：八木直子｜事務局：小林奈央

ひとと復興
—リレー取材—

日本各所での復興支援経験を、地元につなぐ

前号ご登場、板井幸則さんのご紹介　大分県日田市　松永鎌矢さんに聞く



2011年の東日本大震災時、松永鎌矢さんは大分大学の3年生。遠地の出来事ながら被害の深刻さを知り、5月には現地のボランティア活動に参加したという。

「ちょうど次の1年は個人都合で休学予定だったことも、参加を決めた理由でした。希望者を現地に運ぶボランティアバスに乗り、東北へ向かいました」

訪ねた先は宮城県七ヶ浜町。がれき撤去や仮設集会所でのお茶出し、足湯サービス等を手伝う。３日間の滞在後、再訪して半年ほど住み込みで支援に関わった。

「最初は特に、皆さんがまだ馴染みのない仮設暮らしを少しでも落ち着いて過ごしてもらえたら、との気持ちで手伝いました。さらに、既存の住宅を利用した"みなし仮設"で暮らす方が孤立せぬよう交流の場をつくるなど、気づかれにくい課題も学べた体験でした」

この経験がきっかけで、大学卒業後は名古屋拠点のNPO、レスキューストックヤードに勤務。松永さんを東北へ運んだボラバスも運行した被災地支援組織だ。松永さんは日本各所の被災地で人々のニーズを聞き、行政やボランティア団体との調整役として奔走した。

「長野、広島、熊本などをまわり実感したのは、長期的には住民が復興の主体になることの大切さです。もともとリーダー的だった人、災害を機に力を発揮する人など、地域のキーマンが、主体性と持続性のある復興の要になる。同時に、支援・復興活動の経験を、次の備えや災害現場へつなぐ必要性も痛感しました」

そんななか、平成29年7月九州北部豪雨が発生。松永さんの故郷、大分県中津市も豪雨に見舞われ、隣の日田市は川の氾濫や土砂崩れなど甚大な被害を受けた。松永さんは翌日に日田市入りし、ボランティアセンターの運営支援などを始める。 続けて市内NPO等を束ねた支援組織「ひちくボランティアセンター」の立ち上げにも関わった。さらには前職を離れ日田への移住を決意。人材受入制度「地域おこし協力隊」で、住民として復興に関わり始めた。

「いつか地元に戻って自分にできることをしたいと考えていて、それは今だと思いました。地域のつながりを活かした復興の仕組みを、ここで育てたいです」

ひちくボランティアセンターでは、地域の助け合いや交流に加え、愛媛県宇和島の災害支援なども実施。他方で松永さんは防災にも取り組み、市内の廃校を活用した避難所運営訓練の試みも始めた。協力隊の3年任期以降も、この土地で新たな足場を作りたいという。

「災害時に苦しむ人をひとりでも少なくしたい」との思いで各地を駆け巡った松永さんはいま、同じ思いで地元に根を下ろした活動に挑んでいる。（内田伸一）

企業の
取り組み

情報を拡大して、より多くの人に伝える「かくだい君neo」が役立つ場所

エム・ビー・エス株式会社　www.mbsnet.co.jp

「かくだい君neo」は、文字通り原稿を拡大コピーする装置だ。A4サイズの原稿を最大A0ノビサイズまで拡大コピーができる（約4.8倍）。用紙はロール紙を用いるので、A4の用紙を縦に2枚3枚とつなげた原稿を入れれば、帯状の看板や横断幕サイズの出力も可能。トナーもインクも必要ない。感熱式のロール紙と電源さえあれば使用できる。

「この装置を、被災地で役立ててもらえないだろうか？」。そんな思いがエム・ビー・エス株式会社の執行役員　岡田英孝さんを動かした。2014年の長野県新城断層地震の際に設置された白馬ボランティアセンター（社会福祉協議会）に、この装置を持参し、協力を申し出た。それ以後、多くの被災地でボランティアセンターに対して寄贈、長期貸与、用紙の提供、自社スタッフ派遣による掲示物作成などの支援活動を続けている。

社会福祉協議会が設置するボランティアセンターも、自治体が設置する避難所も、多くの人が集まる場所だが、そこに来るほとんどの人は情報を求めている。「授乳室がどこにあるのか？」のような小さな疑問から「ボランティア受付は何時から、どこで行われるのか？」「ボランティア保険に未加入の人はどこに行けばいいのか？」など、数え上げればきりがない。よく寄せられる疑問に対する回答が、大きな紙で張り出されていれば瞬時に伝わるし、ボランティアセンターや自治体の職員がそうした疑問に対応しなくて済むぶん、それ以外の質問や疑問に対して丁寧に対応できる時間が持てるのだ。

現在、社会福祉協議会による災害ボランティアセンター立ち上げ訓練の際には、エム・ビー・エス社員も参加し、この装置の使い方をレクチャーしており、導入する社協も増えているという。災害時に限らず、市民によるイベントや講習会の案内板などにも利用されれば、平時から市民団体と社協との繋がりを強化するというメリットもある。

「場所を示す標識や看板以外では、たとえばボランティアへの『行ってらっしゃい』『お疲れ様』などのメッセージなどは、暖かみのある手書きのテンプレートを用意しています。手書きの方が気持ちも伝わるから」（岡田さん）。また「頑張れ宇和島」など中央にのみメッセージを印刷、その周囲に人々が寄せ書きできるようなボードの使用も提案している。情報のやりとりを超えて、想いやりや勇気の交換の場を作るツールにもなっているのだ。同社では活用事例を知ってもらうことと、災害時の情報発信を目的に、facebookページも立ち上げている。（加藤久人）

被災地（愛媛県社協）にて「かくだい君neo」で掲示物を作成するエム・ビー・エス社の岡田さん

facebookページ「かくだい君＠災害」
https://www.facebook.com/kakudaikun/

「かくだい君neo」。紙種により黒、赤、青の3色いずれかで拡大印刷できる。

NPOの会員になる

あなたの力を貸してください
震災リゲインNPO会員募集！

NPO法人震災リゲインは、活動に賛同してくださる会員を募集しています。会費は各地への『震災リゲインプレス』送料等に充当させていただき、会員の皆様にも同紙をお届けします。周囲の人に手渡し読んでもらうことで、みんなで災害への備えを促進し、復興過程の被災地を支える活動に繋げましょう。各種ご質問は下記へ。
電話：03-3584-3430　Eメール：info@shinsairegain.jp

ご入会は⇒http://shinsairegain.jp

会費は賛助会員／正会員 一口250円／月から、団体会員 一口2,500円／月から。詳細は上記サイトから「会員登録・寄付」をクリック。

【ご寄付のお願い】活動継続のためのご寄付も随時受け付けています。
ゆうちょ銀行　記号番号00160-6-387514　口座名：トクヒ）シンサイリゲイン
※他行からのお振込：店名　〇一九（ゼロイチキュウ）店名019 当座0387514

震災リゲインプレスは以下の協賛により発行しています。

Vision More vision, More success. 株式会社ビジョン
FREEing 株式会社FREEing www.freeing.co.jp
TOSMAX TOSMAX株式会社
IDD 東陽IDDセンター株式会社